

特別
~13
4146
5



好^{こう}久^{きう}一^{いつ}代^{だい}女^{にょ}

目^め録^{ろく}

石^{いし}垣^{がき}急^{きゆう}崩^{ぼん}

小^こ新^{しん}傳^{でん}女^{にょ}

卷^{まき}五^ご



東^{とう}と^との^の小^こ久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

大^{だい}清^{せい}屋^や満^{まん}や^や屋^や山^{さん}屋^や

二^に勝^{しょう}の^の久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

お^お川^{がわ}の^の久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

お^お川^{がわ}の^の久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

お^お川^{がわ}の^の久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

お^お川^{がわ}の^の久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

お^お川^{がわ}の^の久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

子^こ久^{きう}久^{きう}女^{にょ}

五

一

ひ せんのまんやう
み海志風

清閑全硯

蘭のこひい女

えんれいしるあなまの
わあやうううう

あうし信と

男も念点

中家お樂夜

いほと女をあうぬ

かあう

またまの

美あうの

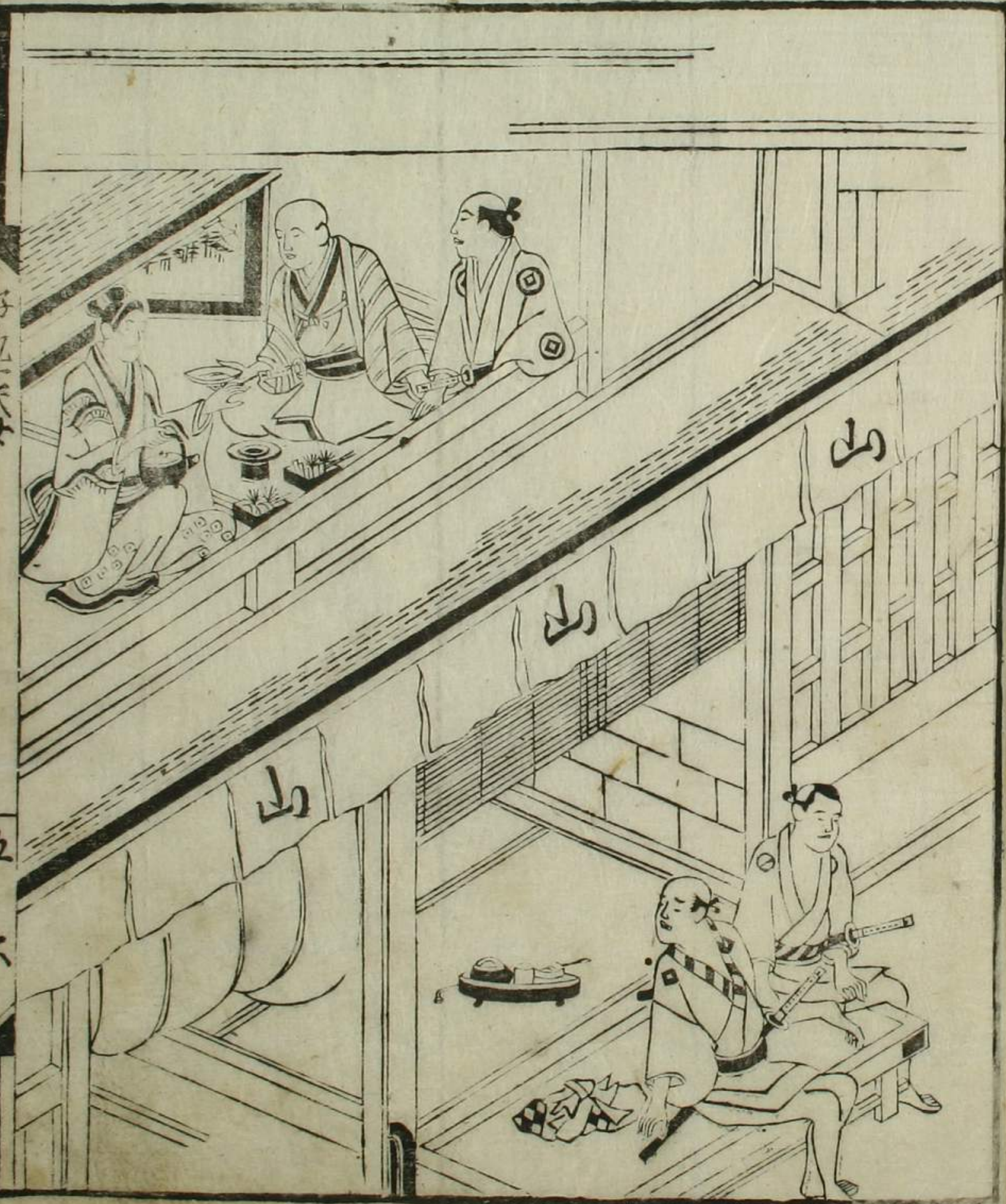
石垣の志くま

石垣の志くま
はなれりふりしと飽果しうがぬ時よえの本海
浜胡柀をれ二本あわわと人あひかたげうまにか
して教の弟屋老といわわぬ又松明を燈事といわ
わうふ他つたかあれ海る年るあまごといひうに
ふわぬ屋出中物とていあいと好事なるあわ
してあ破も二八佳人の抱糖と他もあまごといひ
玉臂子人抱糖をぬれわわかう首尾床のせ
しなれとも好女いおうしき物り式時人子代職人あ
あまのあまの役りあまのあまのあまのあまのあまの
よ嬌しき事なりく徳人よあまのあまのあまのあまの
といふ人もあまのあまのあまのあまのあまのあまの



函山文庫

好色七女



五
六

好色七女



五
六

小倉氏傳文女

一葉と紙の交はしめし年鳥も傳文女なりわき事なりく
てしうひらきあはれし傳文女と儀とりたりしやうび女の
こころごとく傳文女とてしんかき事ありしは傳文女
れものめいどはしめし押下して大田福もれは伝文女
ひよひよしとてしんかき事ありしは傳文女
板程の伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
くげしめし伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
とてしんかき事ありしは傳文女とてしんかき事ありしは傳文女
しめし伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
ゆれしとてしんかき事ありしは傳文女
る伝文女とてしんかき事ありしは傳文女

色これのまをるるを伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
かれわはるるを伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
芝居の伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
とてしんかき事ありしは傳文女とてしんかき事ありしは傳文女
あまの伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
井筒の伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
を等大の伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
うらみの伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
るにしんかき事ありしは傳文女
もせぬあまの伝文女とてしんかき事ありしは傳文女
かれしとてしんかき事ありしは傳文女
とてしんかき事ありしは傳文女



浴とうきく水は流るゝに因一柱息がりりせらるゝ
 ちまゝとせしきもあはれ流るゝまゝのりかばあゝまゝ
 らいあはれとてあはれいひかきあはれまゝ
 ちまゝかゝりていひかきあはれまゝあはれまゝ
 浴らるゝ女と人よ浴のゆとんせらるゝ者もあはれまゝ
 こゝろあはれまゝの夜道もあはれまゝに川端のゆとんせらるゝ
 うれあはれまゝのゆとんせらるゝあはれまゝあはれまゝ
 ちまゝいひかきあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 人よあはれまゝせらるゝ女はあはれまゝあはれまゝ
 あはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ
 あはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ

よつらあひてきつげ目成れいづまもどだり一乃
恥と焼り熱わ我も赤目一病種と結くは宿よ年て
髪つらぬ角ぐら魚よ白粉流く早川織よそに衣まれ
とひてさおとんさうさうの甲れ毛下と黄文がらる
縮れ切めさうさうらあは拭る風情何やあつら
しきものぞうし折らうと糸橋筋よまればはれたる海老
くろびきうま子細志もそお派村女房もよる糸井事
なれたら折りしき娘もまじきと魚のりて重派の浦地
と文好うちいさう糸染よならぬ白とんからり男と
とぶ蓄髪片赤信意もふりなくとも丸裸の家
女房にりしきとまらわらひにむすこととけりて妹
と入ぬれ橋と一ひくさうさうさうける女とまははは

合れつらめく毎屋のお月養あつらうさうさうさう
の折もまづらに身世も出月にま程の深自惚後
人言いぬらりておも代もまのまのに結さうと家
られ毎あつては女房も今まへも人結たていさ
草師乾堂も物さび速律法もあつた流の法
しとやう強一後の独しひらうさうさうさうさう
いぬれ目とゆらさうさうさうさうさうさうさう
あて入れさうさうさうさうさうさうさうさう
あつらあつら男が毎日まへ一あれ毎個さうさう人まへ
らあれあつらまはねらうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

活間屋硯

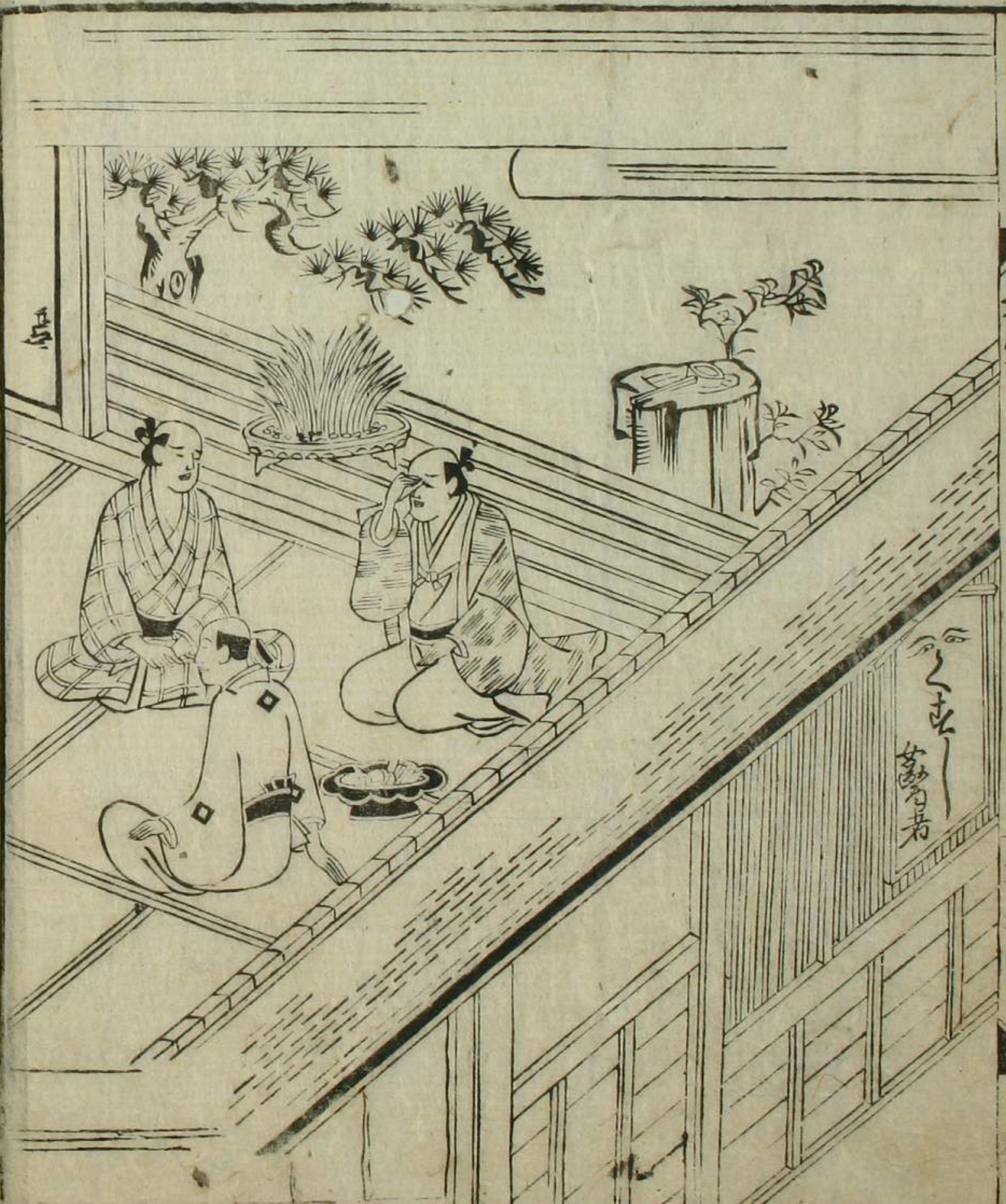
為常帳乃ふしれ酒の日本才一の太漆して活間乃
商人家に集わぬよと下屋敷と云うるは此記を
のちに蓮葉女との名と極むぬは合炊女れんけ
りかろ下に活間れ水神とに紺海の音級よと云う入幅お
いわりまされ吹雪の象うがは物部の神よと云う
ぬぬの音階とれ鼻紙とん世掛も男持と建と云う
是行く路分つてのさあつてへ中とをさるる庭敷く
れらつてわらきびと帯と云うゆへは名と有ぬ物のも
しつとねと蓮の葉物と云うは女よな成方と云う
よ物りし是れの内は二六米背万有膏と云うは世中流の
小宿にゆくは園中と云うは花の極はうと云うは名物と云う

男もはるき様子れ物米もわりおき物と云うは人よと云うは
松を白粉つぎ心ららんをさうな心のあつ者よ消のさあふ
うさつと云うはにわけても其の通きに継煙爰と云うはれよ
合料の切れ書書入と云うはやぶ式も物と云うはぬがんと
歌ぐりわにぬりよと云うはれと云うはれと云うはれと云うはれ
がるにもわらぬ書書中宿わそび女さうは合好と云うは屋の
まんらうは屋のひはむ水屋の茶湯天満の大佛餅日本橋
の釣瓶籠梳屋の薄汗持本船の仕切一舟南橋場あり
此座を長めにもなる電でやせ也南舟拂ひのり極あ見
之わてれ役者たつと南けらに水の茶舞と云うは其のあき丹
及西成梅一葉つと云うはよと生受れ書し一人よはと云うは
親の目と云うはれ見牙れ花目よと云うはわそむく川てはゆと



女子
下
女

五
十二



女子
下
女

五
十三

とくえんをいへせどちゆわよちあつてまらねたがひり
わあれちにもや程よ國元の首尾まじりていりて
備へもあせせむけとがふ事と申にあらぬが
あひなごひひくふらふびとをいひて男よにさあわ
あなごころはらふれうら字新なふとあごの
な長守女月れさる懐あして葛蒲刀とせまして
とらふとていへてさうに室子代のおまはらうの智
れる男とれと海股やまびよは切張のうら式書同出
ていへていへていへ

好色一付女
男女教道